

意欲ある担い手の農業経営改善支援

要約

新たな取り組みや規模拡大を行う担い手に対して①現状の経営状況把握、②5年後の経営改善目標の設定、③目標達成のための施設装備導入及び資金調達計画、④活用できる制度資金や事業の検討、⑤適切な事業実施の各段階において、適切な判断ができるよう指導・助言を行った。

現状(背景)と課題

5年後の経営改善目標を定める認定農業者や新たに農業を始める認定新規就農者はあわせて350名程度

国の事業や制度資金を活用する担い手は毎年10名程度

【H27~28 20名】



目標

・担い手への経営改善支援：4件

実績

・担い手への経営改善支援：7件

活動内容

青色申告書類等による現状把握、労働力や現在の経営収支から適切な施設導入規模、資金償還計画、事業導入後5年間の経営収支等を総合的に判断し、経営改善目標が達成できる計画への指導・助言を行った。活動は、個別対応とし、7名については施設等導入が完了。

成果

- ・経営体育成支援事業（3割補助） 認定農業者 1名 イチゴ高設栽培の導入
- ・スーパーL資金 認定農業者 3名 農業機械導入他
- ・青年等就農資金 認定新規就農者 3名 パイプハウス導入他



関係機関と連携した経営改善資金計画作成相談

普及活動のポイント

農業者自ら意欲的に経営改善に取り組めるよう、指導に際して次の点に留意。

- | | |
|--------------------------|--|
| ① 適切な構想へ誘導
【経営改善計画作成】 | 経営改善に向けた聴取
補助事業や制度資金、栽培技術等の情報提供 |
| ② 現状から課題抽出 | 農業経営を評価（現状把握と分析）
（損益計算書や貸借対照表、販売実績など） |
| ③ 経営改善資金計画のチェック | 導入施設の機種・規模等選定
必要な情報（見積書など）収集と計画作成指導 |
| ④ 適切な事業実施 | 関係機関との情報共有
事業等申請に必要な打合せ |

対象の変化

- ・ 個々の農業者の経営を評価することにより、新たな設備投資等の規模などについて生産者自ら適切な判断が行えるようになった。
- ・ 活用できる補助事業や制度資金を紹介しながら経営改善を目指したが、補助事業が採択されず、自己負担が大きくなることから、計画の見直しを行う場合もあった。

対象者からのコメント

- ・ 経営改善資金計画を策定するにあたり適切に指導いただいた。

これからの活動ビジョン

- ・ 研修会、現地指導、各種事業要望量調査等を通じた意欲のある担い手の抽出
- ・ 意欲ある担い手に対して補助事業や制度資金等の適切な情報の提供
- ・ 新たな事業を始めた担い手へのフォローアップ（特に経験年数の浅い農業者）
- ・ 関係機関との連携による個々の農業者の課題に応じた適切な指導
関係機関で【経営・技術】・【資金】・【農地】の担当者が連携して支援するサポート体制を充実行う。

活動体制

